

【3.近時記憶】 覚えてから思い出すまでに干渉が入る記憶

⑩連続しりとりゲーム

【実施人数】	5人～8人	
【ルール】	2人前の言葉を覚えてしりとりを行う 例) Aさん:「しりとり」 →Bさん:「しりとり、りす」 →Cさん:「しりとり、りす、スイカ」 →Dさん:「りす、スイカ、からす」 →Eさん:「スイカ、からす、すごろく」 →Aさん:「からす、すごろく、くすり」・・・	
【実施時の注意点】	2人前の人言葉を記憶しておく	
【おすすめポイント、アレンジ方法 等】	3人前等覚える人数を増やしていく	
【作業療法士からのコメント】	『しりとりをしながら』というのがポイントです。道具がないので簡単に取り組むことができます。 しりとり以外にも参加者の好きな食べ物、好きなことなどをお題にすると参加者同士がお互いを知るきっかけにもなります。	

⑪数珠バトンリレー

【実施人数】	4人～5人
【ルール】	順番に言葉言う時に、はじめの人が言った言葉から順番に言っていく、数珠のように言葉を繋げていく 例) Aさん:「さくら」→Bさん:「さくら、くるま」 →Cさん:「さくら、くるま、テレビ」 →Dさん:「さくら、くるま、テレビ、うどん」 →Aさん:「さくら、くるま、テレビ、うどん、空」 →Bさん:「さくら、くるま、テレビ、うどん、空、かぼちゃ」・・・
【実施時の注意点】	言った言葉を書き留めておく「記録員」が必要 テーマを決めないで行う
【作業療法士からのコメント】	3文字のことば、4文字のことばなど文字数を決めることで、難易度も調整できます。 テーマがある方がやりやすい場合は、季節にちなんで『冬と言えば?』というテーマを決めても取り組むことができます。初めて参加する人がいる場合などは、参加者の苗字を繋げていくとお互いの名前を憶えやすくなります。 2組やグループにしてみたり、わからないときに一回まで「パス」ができるようにすると参加もしやすくなります。

⑫有名人名前あわせ	
【必要物品】	有名人の名字と名前を書いたカード
【実施人数】	2人～5人
【ルール】	1、有名人の名字と名前を書いたカードを裏側にして並べて、1人ずつめくり合わせる 2、カードがなくなるまで続け、多く合わせた人が勝ち
【おすすめポイント、アレンジ方法 等】	花の絵と名前、都道府県名と特産物などアレンジする
【作業療法士からのコメント】	有名人、花の絵、都道府県と特産物など、いろいろな写真や絵を準備して、カードを作るところから楽しみながらやってみましょう。4文字熟語などもお題に使用できます。参加者の好きな有名人、得意なこと、好きな場所などをカードのお題にするのもいいでしょう。

⑬神経衰弱	
【必要物品】	人物、動物、植物、数字等のカード（写真やイラスト）2枚1組、時計
【実施人数】	2人～10人
【ルール】	1、参加者を2チームに分ける 2、全てのカードを裏返して置く 3、トランプの「神経衰弱」の要領でカードを2枚めくる ・同じカードが揃わなければ、次のチームが行う ・同じカードが揃えば、揃わなくなるまで続ける 4、カードがなくなるまで続け、多く合わせたチームが勝ち
【実施時の注意点】	同じチーム内でヒントを出しても良い テーブルの上で行う
【おすすめポイント、アレンジ方法 等】	初めは簡単なカードで行い、慣れてきたら難しいカードにしてい 残りのカードの数が少なくなれば、シャッフルする 1枚めくった後に歌を歌うなど時間を空けて行う 若い頃と今の写真をペアにしても面白い
【作業療法士からのコメント】	定期的に参加者でカードづくりの時間を作ると、いろいろなパターンや組み合わせで実施できます。 チーム戦で行えるよう少し大きめのカードで作ると、みんなが見えてより盛り上がります。